

平和宣言

非常に密な出会いと友情関係を深めたこの数日間の後、異なる信仰を持つ男女がここに集まり、新たな「平和の道」を開拓しなくてはならないと全ての方に訴えに来ました。世界は、過去と不安に捕らわれぬよう、それをパンのように必要としています。終わることのない戦争により貧困の底に落ち、奴隷となった民がそれを祈願しています。無情な暴力やテロの犠牲者がそれを嘆願しています。戦争や環境破壊によって自らの故郷を逃げるように離れた難民や避難民がそれを懇願しています。

過去には諸宗教に和解をもたらし、より統一し、オープンで連帯感を必要とするヨーロッパの中心部にあるこの土地で、全ての人々の前で私達は以下を宣言します。違うからといって理解しようともせず他者との距離をあけさせる「不安」を打ち負かす。

だからこそ、信仰者全員がより「大胆」にならなくてはなりません。

グローバル化は、経済や商業を統一したにも関わらず、心を統一することはできませんでした。いかなる人も孤立させることなく、多様性を尊重しつつ持続的な対話を通し、精神の統一を生み、生きなくてはなりません。この「精神の統一」は、世界に大きく貢献する事ができます。まだ欠けている魂であり、私達が願望する平和をもたらす事ができます。

諸宗教の代表者として、新たな対話の運動を構築する事で、私達の「地平線」の向こうに目を向けたいと思っています。対話は、武装解除をもたらし、暴力的な人達を阻止します。なぜならば、聖なる戦争などなく、神の名において殺す者たちは、宗教や人間の間で「国籍」など持てないからです。

私達の「ノー」は、この数ヶ月間、北でも南でも余りにも多くの地域や無実の人々を傷つけてきたテロリズムに対する、非常に堅い「ノー」なのです。

権力とお金、武器の売買、ファナティズムや国家主義など、多くの戦争の原因となっている要素を取り除くことに努力することを誓います。冷戦終了後、極東から恐ろしくも再び核戦争の危機が頭をもたげています。一体信仰者に何ができるのでしょうか？多分、彼らが思っているよりも、希望しているものよりも多くのことができると思います。

まずは祈ることです！丁度今日の午後のように、街の異なる場所から、そしてこの広場から発信する大きな「平和の祈り」。しかし、時とともに深まったこの異なる宗教たちの集い自体、平和の証であり、既に対立の予防になるネットワークを築きました。

私達に対する期待が高まっています。地球の最も不運で貧しい人々の期待です。これは非常に大きな責任で、あきらめ、いや、それよりももっと酷い無関心さに飲み込まれてはいけません。教皇ヨハネ・パウロ2世が始められた最初の「平和の集い」の30周年を祝った去年アッシジで宣言したように、そして共同体が毎年繰り返し言っているように、「平和は、神の名」であります。また去年の宣言には、「テロリズム、暴力や戦争を理由づけるために神の名を利用するものは、神の道を歩んでいない」と記載されていました。それ故、今日、神の助けと大勢の方々の支持により、この我が世界にて、新たな「平和の道」を開拓する意志を荘重に誓います。